

古典文法小テスト 助動詞（意味・活用編）その（1）「る・らる」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

意味 活用形

- ① 目も見えず、ものも言は れ ず。
- ② 宇治の左大臣殿は、東三条殿にて行は る。
- ③ 住み慣れしふるさと、限りなく思ひ出で らる。
- ④ いふままにはから る 人あり。

④	③	②	①
形	形	形	形

組
番氏名

古典文法小テスト 助動詞（意味・活用編）その（2）「す・さす・しむ」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① 愚かなる人の人の目を喜ば しむ 樂しみ、またあぢきなし。
- ② 新院のおりゐ させ^a 給ひての春、詠ま せ^b 給ひけるとかや。
- ③ 「帝は竹取の家を」空ける隙もひまなく守ら す。
- ④ おほやけも行幸せ しめ 給ふ。
- ⑤ 月の都の人まうで来ば捕らへ させ む。

② b	② a	①		意味	活用形
⑤	④	③		意味	活用形

組
番氏名

古典文法小テスト 助動詞(意味・活用編) その(3) 「き・けり」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① さやうの人の祭見 し^aさま、いとめづらかなり き^b。
- ② 偽りの涙なり せば 唐衣しのびに袖はしぼらざらまし
- ③ 興なくおぼえければ、鉢に植ゑられ ける 木ども、みな掘り捨てられにけり。
- ④ 「これは、龍のしわざにこそあり けれ。」

	① a	意味	活用形
	① b		
②			
	④		
	③	意味	活用形

組 番氏名

古典文法小テスト 助動詞(意味・活用編) その(4) 「つぬたりり」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① 送りに来つる人々、これより皆帰り ぬ。
- ② 海さへおどろかして、波立て つべし。
- ③ 泣き ぬ笑ひぬぞしたまひける。
- ④ 今朝まぎれ出でて、かくなつてこそ参り たれ。
- ⑤ 集まれる人ども、一度に「は」と笑ひ たるまぎれに、逃げていにけり。

	①	意味	活用形
	②		
③			
	④		
	③	意味	活用形

組 番氏名

古典文法小テスト 助動詞(意味・活用編) その(5) 「ず む むず」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① 死の近きことをも知ら ず^a、行ふ道の至らざるをも知らず、身の上の非を知ら ね^b ばく
- ② かの国元より迎へに人々まうで来 む^ず。
- ③ やがて掻きつくままに、頸のほど食は む とす。
- ④ 「忍びては、参り給ひな む や。」
- ⑤ 落人のあら んずる をば、用意してうち殺せ。

②	① b	① a	意味	活用形
⑤	④	③	意味	活用形

組 番氏名

古典文法小テスト 助動詞(意味・活用編) その(6) 「らむ けむ」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① 「鸚鵡ハ」人の言ふ らむ^a ことをまねぶ らむ^b よ。
- ② いかでかばかりは知り けむ。
- ③ 知りたることも、なほさだかにと思ひてや問ふ らむ。
- ④ みづからはいみじと思ふ らめ ど、いと口惜し。
- ⑤ さることはべり けむ。

②	① b	① a	意味	活用形
⑤	④	③	意味	活用形

組 番氏名

古典文法小テスト 助動詞（意味・活用編） その（9） 「めり なり」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① 宰相さいしやうの中ちゆうじやう 将しやうこそ、参まゐりたまふ なれ。
- ② 法華堂ほつげなどもいまだはべる めり。
- ③ すだれ少し上げて、花奉り めり。
- ④ また聞けば、侍従の大納言の御娘亡くなり給ひぬ なり。

	①	意味	
	②	活用形	
	④	意味	
	③	活用形	

組 番氏名

古典文法小テスト 助動詞（意味・活用編） その（10） 「じ まじ」

問 次の傍線部の助動詞について、意味と活用形を答えよ。

- ① わが身は女をんななりとも、かたきの手にはかかる まじ。
- ② 冬枯れのけしきこそ、秋にはをさをさ劣る まじけれ。
- ③ 妻めといふものこそ、男おとこの持つ まじき ものなれ
- ④ 法師ばかりうらやましからぬものはあら じ
- ⑤ 人のたはやすく通ふ まじから む所に、跡あとを絶ことえて籠こもりゐなむ
- ⑥ 勝たむとうつべからず、負け じ とうつべきなり。

	①	意味	
	②	活用形	
	④	意味	
	③	活用形	

組 番氏名
